

1 学校教育目標 「心豊かに 自ら学び たくましく生きる子どもを育てる」 ～ パワーアップ大作戦 ～ ①心パワーアップ ②学力パワーアップ ③体パワーアップ ④開かれた学校づくり	2 本年度の重点目標 ①心パワーアップ …「心の教育の充実」「特別支援教育の充実」 ②学力パワーアップ …「学力向上」「主体的・自律的態度の育成」 ③体パワーアップ …「主体的な運動や健康づくりの推進」 ④開かれた学校づくり …「家庭・地域との連携」「土曜授業の活用」
--	---

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 心パワーアップ

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・「心の木」活動の日常の実践	・自尊心を高め、互いを認め合う風土を醸成し、Q-Uの満足度を高める。 ・子どもの実態に応じた予防的対応に重点を置き、内面の成長を促進する。	・「心の葉」活動、月ごとの心のアンケート調査、Q-U等を通して、子ども達の問題を早期発見・対応する支援体制をつくる。 ・心の授業、構成的グループエンカウターを定期的に実施し、自他のよさに気付かせ、温かい人間関係づくりを図る。	B	・Q-Uや心のアンケート等から情報を共有し、担任だけでなくより多くの目で子どもを見守り支援していくことができた。また、毎月「心の葉」を書くことで、自他の良さを見つめ、温かい言葉をかけたり助け合ったりしている。	・職員全体で子どもを見つめる校内の風土を継承し子どもの内面的成長を育んでいく。また、子どもがより安心できる居場所づくりのために、SCや家庭との連携を図りながら心の教育の啓発活動を充実させる。
	○特別支援教育	・特別な配慮を要する子どもへの支援体制の充実	・特別支援教育の組織的な支援体制を確立し、一人一人の教育的ニーズに応じたかかわりを行う。	・障がい特性の理解や支援の方法、保護者面接等についての研修会を行う。 ・長期目標、短期目標を見据えた細やかな支援計画の作成を行い、特別支援コーディネーターや生活指導員等と連携した支援の充実を行う。	B	配慮を要する児童については、各学級担任が個別の指導計画を作成し、支援を行った。その際、生活指導員との連携を密にとりながら、日頃の学習状況等を確認し、支援の共有化を図った。今後は、学級、学年間を超えた支援やかかわりの共通理解を行っていくことが必要と感じた。	生活指導員等を交えた情報交換の場を隔週程度での実施できる時間を設け、配慮を要する児童の共通理解を図る。また、夏休み等を生かして、具体的な支援のあり方を学ぶ研修会を実施し、日頃のかかわりの充実を図る。
	●いじめの問題への対応	・人権・同和教育の充実	・互いのよさを認め合いながら、一人一人を大切に、一人一人が大切にされる集団づくりを行う。	・人権・同和教育の視点の一つである「人間関係づくり」を中心に据えた、授業実践を行う。 ・人権教室や人権標語活動の中で、子どもたちの人権感覚を高める場を設定する。	B	・各学年・学級で、子どもたちの実態に応じて「人間関係づくり」の授業実践や日々の指導、人権標語活動を行った。そのことで、子どもたちの人権意識を高め、互いのよさを認め合いながら一人一人を大切にすることを図ることができた。	・全校の集いの際に行う人権の集いの内容を、人権教育の目標や子どもたちの実態を考慮しながら年間を見通して計画し、全校が共通理解のもと、互いのよさを認め合いながら一人一人を大切にすることを図る。

② 学力パワーアップ

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・授業力の向上	・各教科等において、自ら知って考えて行動するための資質・能力を身に付けさせる研究実践を組織的に進める。	・各職員が、年間3回以上の研究授業を行い、授業評価シートを基に授業研究会を行うことで、子どもたちに育みたい資質・能力を身に付けさせる。	B	各教科等において育成すべき資質・能力を明らかにし、その資質・能力を育むという観点から授業改善を行ったことで、教師が期待する子供の姿や意識の変容が見られるようになった。今後、資質・能力が身に付いたかどうかの客観的な効果測定が必要である。	育成すべき資質・能力が子供に身に付いたのか客観的に測定する評価方法の在り方を検討する。
	●学習習慣の定着	・学習習慣の定着	・家庭における主体的な学習態度を身に付けさせる。	・家庭学習の手引きを配布することで学習内容や方法の周知を家庭に図ると共に、家庭学習のよりよい実践を取り上げることで子どもの意欲を高め行動化を図る。	B	家庭学習の手引きを配布し、時間や方法などの留意点を共通理解した。1学期末には、各学級で自学をがんばった児童を表彰し意欲付けを図った。	中学校との連携を図り、中学校の家庭学習の在り方などを周知することで、見直しと意欲を持たせる。
	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・ICT活用の研修の実施	・ICTを活用した授業を積極的に行う。	・ICT支援員との連絡用バイナードを用いて連携を深めることで、職員のICT活用を進める。 ・背面掲示板や回覧を利用し、ICT活用の効果的な方法の情報交換をする。	B	・ICT支援員の来校日に、疑問点についての質問、よりよいICT活用方法についての意見交換を行うことができた。 ・校内での公開授業を通して具体的なICT活用方法について情報交換ができた。	・公開授業では教科の内容についての意見交換が中心であったため、教科の内容を深めるICTの活用方法についても視点を当て、協議を行っていく。

③ 体パワーアップ

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	・健康・体力の保持増進	・「食」や「体」についての関心を高めるとともに、運動の楽しさを味わわせる。	・教科等、児童集会、委員会活動等を活用して、朝食や給食、運動への関心を高めさせる。 ・運動の楽しさを実感させる授業づくりを基盤に、週1回のたてわり遊びや学期に1回の学級対抗ゲームを行う。 ・体育や保健の授業、学級活動の授業と関連を図り、養護教諭や栄養職員とのTTも視野に入れ、実践を行う。	B	・学期に一回、運動委員会を中心に学級対抗スポーツ大会を実施したり、スポーツチャレンジへの取り組みを促すことができた。さわやか委員会が週1回のたてわり遊びを実施し、体を動かして遊ぶことができた。 ・養護教諭や栄養職員と連携し、教科等や給食の時間等を使った計画的な指導を行うことで、健康についての関心を高めることができた。	・本校では多くの児童が休み時間になると運動場に出て遊ぶ様子が見られるが、限定された遊びしかできていない。体育や学級活動の時間に、運動遊びを紹介したり、遊び道具の充実を図ったりする必要がある。 ・体力だけでなく、健康・安全面からも取り組んでいる委員会活動等の啓発を行い、児童自らが心身の健康を高める素地づくりに努める。

④ 開かれた学校づくり

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	○家庭・地域との連携	・学校支援ボランティアの活用 ・地域の各種団体、PTAとの連携	・学校支援ボランティアを生かした、郷土への誇りや愛着を深める教育活動の実施 ・地域や家庭、PTA等と連携した行事等への参画	・土曜授業を活用して、地域の「ひと・もの・こと」とふれあう教育活動を行う。 ・クラブ活動や授業等で地域人材を、ゲストティーチャーとして積極的に活用していく。 ・地域と連携しての防災訓練を行う。	B	・土曜授業を活用して、本庄学や生活科で、地域の方をゲストティーチャーとして、本庄の歴史や特産物などについて学習することができた。 ・地域と連携して、地域の方と一緒に防災避難訓練を実施することができた。 ・土曜授業の活用だけではなく、活動全体を見越して、計画的に進める必要がある。また、ゲストティーチャーとの打ち合わせを綿密に行うことで、より質の高い活動を目指すことが大切である。	・次年度も、本庄学や生活科を中心に、地域の方をゲストティーチャーとして活用していく。その際、本庄小学校の人材バンクを作成し、地域とのつながりが継続できるように配慮する。 ・地域合同の避難訓練を継続し、子供達の危機回避能力を高めていく。 ・ゲストティーチャーを活用するときは、事前に計画等を教務、教頭などに相談させ、より効果的な活動ができるように配慮していく。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

○ 全ての評価項目で、概ね達成ができています。保護者アンケートでも、全項目で概ね達成以上の評価をいただいた。7月のアンケート結果よりも2月のアンケート結果評価が高かったことから、保護者の本校の取組への理解が進んでいると考えられます。次年度に向けては、「心の木」活動を中心に、子どもがより安心できる居場所づくりのために、SCや家庭との連携を図りながら心の教育を充実させる。配慮を要する児童については、全職員で共通理解を図る場を設定していく。学力の向上については、今年度の校内研究を更に進め、児童の資質・能力の育成を図っていく。また、教科の内容を深めるICTの活用を工夫する。健康・安全面では、児童自らが心身の健康を高める素地づくりを進めていきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目